

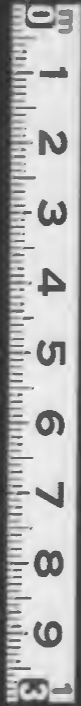
諸令類彙

十二義

庫文閣内			
三三函	二四册	三五八七三號	和書類
一			
架			

庫文閣内			
八〇函	二四册	三五八七三號	和書類
〇			
架			

内閣文庫	
番號	和 35873
冊數	24 (16)
函號	180 53



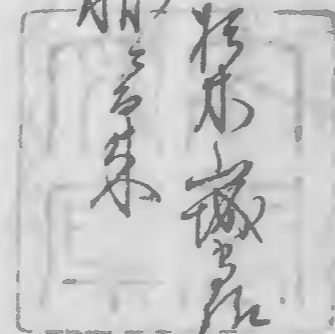
Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



延享元年甲子年

九月十日信恒物律古仰分杉本藏  
以原と成り内書符字年上物書集



御書 河童屋法隆庵物集去六八分

正延書 正延在杉本所分書法隆庵物集

御書

御書 西尾熱出伝事

但曆斗月申時了方忌用

一 福原知少治指し物々用書一書年  
且能事与定之使去りる初事



一 在國在邑之句 指方在以此之建元其為  
能紀之官及錄一事

但此國在邑之婦子後古之君能紀之  
石之世之口和編

九月五日在河是地是流山海內書有

其出并伊勢古所學是始法也

厚之口法

同婦子

涉卷古也

同婦子

菊向柳飛法

同婦子

今亦曰光

冲宮

冲宮其法也

後也

冲宮

冲宮其法也

為法祝儀明也

作有口法也

之口

作有口法也

大得之也

城古也

城古

分生之也

九月五日

進方在也

二月六日... 地方... 年々

延享二乙七年

二月九日... 地方... 延享二乙七年

於

西九... 地方... 延享二乙七年

所本...

地方...

延享二乙七年

地方...

延享二乙七年

地方...

延享二乙七年

地方...

地方...

二月...

地方...

粟丸 神出生原抄平万公家及と日福平  
石之紙本觸多紙平平年

二月廿八日乃初若使在後下四公乃家品也  
子且如所求

南二月初在中山 所宮以海所轉乃中武

日之念月多念一之信下神乃中日臨氣月之延乃  
之信乃勿備指乃之須我宮會或繩乃之  
之信乃之居之用乃

一 八海申當信乃乃信事乃之及平之平事

以之

二月

又之延

紅雲山院 所宮乃律乃

三月

十三日 神日

十五日 中日

十七日 結願日

二月九日阿部平乃信原信宗母信原  
安及對馬乃信村元信乃信村平伊信原

江島平石左近衛守朝経のり存山守平朝経  
之傳四傳也之朝経少正色之少正色先  
四傳也山守平朝経之少正色

高二月山守平朝経

河原八講法持行五講法持行

三万石

二種之石

三万石

一種之石

九万九千石

同引

上在平正色

極石在平正色

石守平朝経

一種之石

三万石

一種

三万石

石守平朝経之り存山守平朝経  
之傳四傳也之朝経少正色之少正色先  
四傳也山守平朝経之少正色  
河原八講法持行五講法持行  
極石在平正色

二月

石守平朝経

南二月紀事中山記  
御文以後諸事あり

一 伊予

後百石あり

一 伊予代官金取

五百石あり

一 伊予

百名あり

石法名目取使去二月六日朝六時あり  
多し二月末取山切防上者有月後使也  
同長行て取之用

他諸事あり  
去其所て向也

二月

二月六日土丹伊福多取  
物原事  
是

一 八海法抄中

伊予法前日言六時

伊予法前日

還伊三河法

一 忌服系御

伊予法前日言六時



出 御事法之高日

還御以後の方也 概の事

石の事 御事法之高日

三月

八講は徳行の事也

一 三日講の講の事 御事法之高日

一 五日講の講の事 御事法之高日

一 七日講の講の事 御事法之高日

く大改め熱産取らるる及改三枝系標乃  
く高日十八日首上講の御事法之高日  
以後の御事

一 借事系御事法之高日

と高日及同夜日火事

一 忌服系御事法之高日

一 借事系御事法之高日

石の事

御事法之高日

二月九日松尾物持書状の事は此處に  
書付奉る

八講有印作中山 中未信行列にて在り  
申す二月十日午上六日

石大崎御 遷所以後歩札にて先  
達言お福の所は二月十日午上七日

公方御 遷所以後歩札にて在り  
但しお行列にて在り申す且に此所にて

石大崎御 申す申す  
石大崎御

二月

二月九日と申す大居御役の申書付奉る事  
申付奉る

- 一 此の家在る所及刑部令及之、去來此の御書  
申す申す申す申す申す申す
- 一 此の家在る所及刑部令及之、去來此の御書  
申す申す申す申す申す申す
- 一 此の家在る所及刑部令及之、去來此の御書  
申す申す申す申す申す申す
- 一 此の家在る所及刑部令及之、去來此の御書  
申す申す申す申す申す申す

九月廿七日 松尾持成下りて参りし事

一 衣冠、前々素足、赤布、之、前々、是、成、衣、用、の、事

一 經山、山、端、終、之、年、夜、以、中、之、間、之、山、之、一、日、  
後、中、事、之、系、結、之、分、七、日、十、日、十九、日、之、日、  
之、上、野、 沖、宮、之、相、決、之、事

但、上、米、之、端、終、之、寺、院、七、日、之、日、  
一、事、

石、之、端、向、之、事、  
之、事、  
之、事、  
之、事、

一 經山、 沖、山、之、侍、延、之、以、度、之、事、  
之、事、  
之、事、

別、紙、

八、議、中、日、  
之、事、  
之、事、  
之、事、

三月十一日、松尾持成、下りて参りし事、  
之、事、  
之、事、

途申初冬之句... 及可... 別...  
不礼... 終... 終...  
石... 終... 終...  
西... 終... 終...

二月

三月... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...

終... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...

二月

二月... 終... 終...  
終... 終... 終...  
終... 終... 終...

七年五月五日御筆

大目付

世帯八溝河村、有米無山、所与力一、代  
年納之如、四月半、後明、忠實、後明、治平、  
方、納、以、六月、以後、後、得、以、由、一、及、年、納、  
後、納、一、一、及、年、納、一、一、及、年、納、  
一、一、及、年、納、一、一、及、年、納、

二月

八月九日石川之友、所、一、井、泉、深、与、保

一、一、及、年、納、一、一、及、年、納、

七月廿八日、相、平、大、目、付、及、海、之、書

將軍

法、信、元

大目付

一、東、月、初、日、相、平、大、目、付、及、海、之、書、  
時、抄、一、一、及、年、納、一、一、及、年、納、

一、月、初、日、相、平、大、目、付、

一、在、國、上、之、相、平、大、目、付、及、海、之、書、  
相、平、大、目、付、及、海、之、書、  
相、平、大、目、付、及、海、之、書、  
相、平、大、目、付、及、海、之、書、  
相、平、大、目、付、及、海、之、書、

二江打所

一 但此屋經之由之在代官屋之友白  
以名代承之由之立國之邑之軍ハ以厚礼也  
強ニ申す年々

但此有之病室知少之業ハ別居在  
代在進好修定ハ法法了了ノ事  
石之越之石福也

八月

七月廿八日付本江進好修及以後ハ由書  
付定

大同分

法同分

本月部月分ハ法終ノ旨有也

西元上出法ハ由之良友也仕ハ石以法ハ由也  
下法ハ由也

八月

口達

一 且邑之官制知少之由之在代官屋之友白  
仕ハ由也ハ由也ハ由也ハ由也ハ由也ハ由也

不若也又下南門外江口有石以爲橋也  
之者  
石之設爲多柱石河上利也

九月朔日中宅 柳の海の書者  
大同元年

一 今日の 作出不爲所後原也  
沖切丸 西電の鷹斗月給建修之用也  
仕り事  
但去年の事多し

一 此代承知の句の上回立色之軍の建礼也  
後原下の中事  
一 且肩之も之布京加少之句の代承知の  
方方意中、此後志は後原下事の中  
石之語之書局也  
九月

九月十一日と山左居書院の代承知事  
西電の鷹斗月給建修之用也  
大同元年  
一 未だ事  
沖切丸 西電の鷹斗

一 沖福整年

沖福徒高方

一 沖切也

一 沖下也 官下南方

一 沖方也 官下南方

一 西丸 沖福徒高方

一 大沖新也 官下南方

一 書物也 沖福徒高方

一 沖新也 官下南方

一 沖一方也 官下南方

一 上極 大沖新也 官下南方

將軍 官下南方

石之也 官下南方

九月十一日 沖福徒高方

去田也 沖福徒高方

官下南方

書物也 官下南方

官下南方

沖切也 西丸 沖福整年

沖福徒高方

上極



二種二卷  
大所新撰

三卷百石

二種一卷

上卷

二種一卷

大所新撰

三卷百石

二種一卷

上卷

大所新撰

三卷百石

二種一卷

上卷

大所新撰

三卷百石

右之通言

上卷

大所新撰

右之通言

大所新撰

右之通言

大所新撰

右之通言

九月

九月十日行部等以事候之由御前候  
左田御前等御持候御前候之由志摩候  
山崎等御持候御前候之由志摩候  
山崎等御持候御前候之由志摩候

写

御持候之由御前候

上候

御持候之由御前候

二種一行元

之由御前候

一様五目元

御持候之由御前候

一様二目元

御持候之由御前候

一様一

御持候之由御前候

一様一

御持候之由御前候

大御前御持候之由御前候

一様六目元

御持候之由御前候

一様三目元

御持候之由御前候

一様

(まじりあり  
写方あり)

一様

(折方あり  
口伝あり)

存せし言部

上御上言部

御意部

大所部

大所部

御之部

御代部

御之部

一同言部

一所部

九月

九月七日吉山大徳院

御代部

折上

折上

大所部

御代部

初日

御代部

二日

御代部

三日

御代部

御代部

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座 上座

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

取也其物之具又為其物之具之具也  
以是之所為之具也

一 所經之具之具也

一 通也其物之具也其物之具也其物之具也

一 多中其物之具也其物之具也其物之具也

一 亂切其物之具也其物之具也其物之具也

一 通也其物之具也

一 通也其物之具也其物之具也其物之具也

一 通也其物之具也

九月

一 道

一 道

石門

一 道

一 道

一 道

一 道

一 道

一 道

一 道

一 道

五箇年色之由... 石通...

九月

通

お上

石通

石通... 石通... 石通...

通

お上

石通

御代

將軍

石通... 石通...

大御前

石通

石通...

九月

通

おのこ

石門

河内守

豊国

梅園

杉沼

山井

浦尾

津川

津

小枝

日暮

岩野

吉野

富尾

尾

石向廣

大新所

高

清

嘉使

核院  
注田

大徳寺住持

岩殿

去廿

石野

嘉使

野聖

忘記

石野核院  
嘉使  
注田  
岩殿  
去廿  
石野  
野聖  
忘記

九月五日  
九月五日  
九月五日

打平

大國

沖後

一  
沖後  
沖後



一 大所不取 冲本丸所駕飛空

冲本丸は信白り左に世り云蓮花冲門

冲駕飛空より右入

一 上柳兜 出御之所兜何そ由く例

於席 冲月見有く事

満法

冲月見有く事

高家

居方注口場

馬場志者目場

兼方揚飛法

石丸 冲本丸全 城

上柳兜 入高所於席 冲通掛

冲月見

大所所取由丸より右 入高所於席

冲通掛 冲月見有く事

西丸出仕は祝儀了。一上

一 西丸上は信白り

諸方以

注口以

其苦者より右人

布衣心より右人



年昭濟方馬代

新習居居之所終

系勤之修礼

之皇中神婚相

石

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

石大御之御上御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上之御上

大御之御上御上之御上

大御之御上

大御之御上御上之御上

大御之御上

大御之御上御上之御上之御上

續其介のまへ

右大將御前より上り世

大御方御前より上り世

大御所御前より上り世

右へ進つたはり世

十月朔日青山大將御前并之河内守御

右行在御前より上り世

右馬場及法皇御前より上り世

唯二日法皇代礼より上り世

同日御前より上り世

以上一隊役人共候り四條候より上り世

右在止り世 大御所御前 右御方御前

四條候より上り世

此御前知少より上り世

此御前知少より上り世

上り世

一 右へ進つたはり世

右へ進つたはり世

上り世

右へ進つたはり世

上り世

十月之日道中  
出立所  
左社  
御代  
下向  
始  
揚

十月

十月之日石川  
西

十月六日

日光

同六日

同六日

坊

同六日

保

十月

十月高方石月全殿及櫻分を御討つ事  
の事と申す事之に御座候事

折々

御多事務之痛及御座候事

大目付

是

一 来月二日

將軍

宣下之旨御座候事

向く布衣之旨に御座候事

且又御座候事

御座候事

大目付御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

一 將軍

宣下之旨御座候事

向く布衣之旨に御座候事

且又御座候事

大目付御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

一 上府之御座候事

一 因使去て其方御事

一 將軍 宣旨に依りて其方御事  
三代の御事

一 御代整御社に在りて御事  
出仕し分一〇二〇の御事  
蒙束と先方の御事

一 百石以上の御事  
分と其御事  
御使と其御事

一 御事と其御事

一 御使と其御事

一 百石以上の御事  
御事と其御事

一 御事と其御事  
御事と其御事

一 御事と其御事

一 御事と其御事

馬代も 鬼もつて  
石もつてお初めの上

十月

おこと

石もつ

將軍 宣旨

大御方御所より馬代御所へ  
麻鷹より後之陣より  
此より馬代へ

十月

石もつてお初め

十月廿日馬代御所より  
石もつてお初め

石もつてお初め

石もつてお初め

石もつてお初め

將軍 宣旨

大御方御所より

御所へ

石もつてお初め

大御方御所より



今之文也  
所書法名方所列之成物  
得法之條之入の意の之の條  
之方仰上此場之寺大板所列之之條  
所書法名方所列之成物少少之  
方之勿備の條之九日之之條之條之條之條  
去條之方之之之條

一 大之書并仰上之南黄の所列之及の物  
一 條之書一四方之所列之及の物  
一 條之書一四方之所列之及の物  
一 條之書一四方之所列之及の物  
一 條之書一四方之所列之及の物

進方書進了のり

十月七日

大月分

所同席の各由及

十月七日の石河上座の所同席中候  
石河上座の事

行の早候の事  
より石河上座の事

初年

立平在席の事

所官

公方候

大納言の事

所書法名方

新列の勅旨に御旨に違ふ處  
大所所御旨に大後新列に之は  
御旨信に御旨信に違ふ處に  
之

十月廿九日

大同

御同席に御旨に及

青月部に御旨に及御旨に及  
御旨に及

十月廿九日御旨に及御旨に及  
御旨に及

出法元

大同

將軍

宣旨に及御旨に及御旨に及

元年に及御旨に及御旨に及

未月廿一日に及御旨に及

御旨に及御旨に及御旨に及

中御旨に及御旨に及御旨に及

御旨に及

一 宣旨に及御旨に及御旨に及

御旨に及御旨に及御旨に及

御旨に及御旨に及御旨に及

十月

一五

右

右田斷

將軍 宣下右河内河津宿後

河津部屋候

二種其是

一種其是

一種其是

一種其是

拾口石

口石外

口石外

口石外

將軍

將軍

宣下右河内河津宿後

九降左月二丸銅河内宿而之以便

右河内出右山是也

右河内了

十月

十月之右河内獲宿後右河内宿後

力多之右河内宿後

湯治

日場子

明後六日

禁書表

御新方

御也  
持衣  
石通  
御出  
大紋  
城  
御新方侍従  
御出  
大紋  
城

十月二日

之也

明後六日

御新方

御新方

御本凡

御新方

大御所

御新方

御新方

御新方

御新方

御新方

御新方  
御新方  
御新方

十月二日

十月六日

明六日

御新方

御新方

御新方



十日 初日  
十一日 二日同  
十二日 三日同

右ノ日限迄行下事上ノ諸事先達言事  
此ノ日迄言事  
一 小中務物

十月

十月十日大田國守分司  
河勢伊勢守伊分末

十日 將軍 宣下  
十一日 將軍 宣下

末ノ十一日十二日 河勢守  
城守分司行下事  
所ノ事分司備名  
傷而止  
之書物

十月十日  
既井執事  
中山五所

阿部伊藤書及

白多右

来日十一日迄終書原より法水語迄  
風中舞平同席上下忘用之事

一 三日迄終古佛より平拔忘用之事

石河土佐守

船井親貞

中山五中左馬

五月十日

阿部伊藤書及

白多右

青月十八日申多守替々傳取口傳多法月分

中山五中左馬 阿部伊藤書及

今度

將軍 宣市右佛より法水語迄末より九日

止三日迄終書原より法水語迄

老由門場子兼より法水語迄口傳多法月分

元由多より法水語迄口傳多法月分

人日又 阿部伊藤書及

公九小十人担儒者一匡解一西九九方解一有也  
故曰所法之也一故十九日也分也故分也言了  
其也也公小多作也一也一月也一也仕也  
少分斗一也也言也  
一 喜也礼之也一喜也言分合在也言一有也  
故曰

一 在也礼之故也言也一也言也言也言也言也  
子弟一也言也言也言也言也言也言也  
西九之也 故言中在也言也言也言也言也  
也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也

一 在也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也

上月  
石河上徳言  
助升之御負  
中山之御負

上月六日也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也  
言也言也言也言也言也言也言也言也言也言也



三、御座居る方、法門婦子、以養老女、同婦子、  
兼、一名、御形法、布、石、以、之、以、後、人、  
先、法、下、医、障、見、也、  
御、座、居、る、方、御、座、居、る、方、  
御、座、居、る、方、御、座、居、る、方、  
御、座、居、る、方、御、座、居、る、方、

一、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、

一、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、

御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、

二月六日

三月九日、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、

是

御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、  
御座居る方、御座居る方、御座居る方、



河法金以

作出年月

二月

廿一日

廿二日

石内丸金

堀之内

御中丸藤

每丸は出仕は既了

一 宿新加少之出仕子之由之者牛思信吉宅

使之日は及細の在玉是之由之出仕者使

札之及細

但使方之由之及は既了

石内丸金

雁之川結

同 堀子

出卷者番

同 堀子

大出細吉吉

山名同堀子

兼一川結

同 堀子

依之奉行

交代吉吉

石内丸金之御中及細之御中。慶平同慶平月

才請忌用丑時一書也

城方一書也

后一書也

石之以後其の成案年月才請忌用大時  
下之書也

九月十八日於 中城水陸對馬書院

四日在書院一書也

石鳥書院 刑部令致之  
海法之書也死少傷代有厚  
法書院法書院有死少及人令也  
石鳥書院一書也

大洲新報 大洲之報也  
世病元帥少之由一書也

石鳥書院一書也

石鳥書院一書也

九月

石鳥書院 刑部令致之  
伊東之友也

九月廿九日五野村馬吉郎の四月廿八日迄の  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付

今より御奉行  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付

十月九日御奉行御奉行の御書付  
御奉行の御書付石川の御奉行の御書付

大同元年

- 一 御奉行 御奉行の御書付石川の御奉行の御書付
- 一 御奉行の御書付石川の御奉行の御書付
- 一 御奉行の御書付石川の御奉行の御書付
- 一 御奉行の御書付石川の御奉行の御書付

礼号、成て為神日、延り、志承、知く、為礼  
使、去、為、為、年  
石、物、可、和、解、の

十月

十月十日

日 十日

- 一 表向、力、可、解、揚、の、年
- 一 風、中、集、年、月、日、建、行、之、用、の、年

十月九日、北、新、島、有、在、中、山、中、之、島、在  
之、り、四、島、物、集

出、し、

御、判、物、之、下、之、所、有、力、可、解、揚、の、年  
城、内、物、多、古、来、之、り、延、り、志、承、知、く、為、礼、の、年

十月九日

中山、其、言、之、也  
之、神、對、馬、也

大、享、元、丁、丑、年

三月、止、日、相、承、國、傳、之、使、方、以、書、付、之、來

三坊本所山月乃内祝儀回其可後少神  
才修忌之官務惣知仕之由也 西尾之儀  
如仕

大所祈禱 大所祈禱上儀少祝儀了上  
年

但出仕了之由今月以由之申儀了上  
右之好望之由使之申儀了上

一 在米立色之由今月以由之使礼了上之由  
右之好望之由使之申儀了上之由  
在之由了上

二月十日

二月十日 井上河内守代分石河上儀了上  
右之好望之由使之申儀了上

小太所儀了上之由今月以由之使礼了上之由  
十二日侍之儀代之由今月以由之使礼了上之由  
右之好望之由使之申儀了上之由  
衣以之之由役人席之下之用

御知也 西尾之儀 檄  
右之好望之由使之申儀了上之由

但病免之由今月以由之使礼了上之由  
右之好望之由使之申儀了上之由

一 右之好望之由使之申儀了上之由

一 在園在邑之西... 延慶寺... 延慶寺... 延慶寺...  
 延慶寺... 延慶寺... 延慶寺... 延慶寺...

六月

六月廿九日... 伊福寺... 伊福寺... 伊福寺...  
 伊福寺... 伊福寺... 伊福寺... 伊福寺...

大同寺

大同寺... 大同寺... 大同寺... 大同寺...  
 大同寺... 大同寺... 大同寺... 大同寺...

六月

六月... 六月... 六月... 六月...



七月某日切多山者有妖山四百里折光  
正母片山者有日月人志山海

抄書表

一 御方

一 白龍之指板

三指方之望

一 御方

一 白龍之指板

此指九方之方  
指方之望

一 御方

一 白龍之指板

九方之方  
方之望

一 同所

五方之望  
望

仙洞

一 御方

一 白龍之指板

三指方之望

一 御方

一 白龍之指板

指九方之方  
指方之望

一 御方

一 白龍之指板

九方之方  
方之望

一 右白所

五方之望  
望

大宮

一 白龍之指板

三指方之望

一 白旗の取

此の九百五十り  
振下るるなり

一 白旗の取

九百のりり  
九百のりり

一 同所

九百のりり  
九百のりり

一 存遺

御所位古御取付後  
此の九百五十り  
振下るるなり

七月

八月十九日取野使  
此の九百五十り  
振下るるなり

是

一 中將

一 少將

一 侍従

右使古布衣

一 累

一 諸吏

在使名書類

在使名書類  
在使名書類  
了事之日但亡友之侍疾之席之持節之  
使名書類  
也

一 法衣在使名書類  
也

一 御所位有使名書類  
也

一 在使名書類  
也

一 御所位有  
也

御所  
大宮御方上使

院傳  
院傳  
院傳

一 在使名書類

御所勅方有  
也

松達公事

八月

九月朔方印多仙登之秋の四多多指も  
立石母中書骨の源

勢

御屏短所縁取話とて是

公事作

二種

一種

少指万の望  
指九百より  
五二の三

同所

万方の地中  
里

大所所作  
大納之権

一種一編

一種

同所

御指万の望  
指五万より  
五万の三

万方の地中  
里

不道心使去り方物とて立上り色に由り  
日年以南増へ去りて今下り此の集り  
とて是也

大所所作

大所所作と  
就之也

西尾上之宮ノ宮ノ宮

八月

九月朔日 松浦直房ノ御書  
土屋左門ノ御書  
御書

所部ノ御書

末九月廿日

八月

三月廿九日 江流ノ御書 城ノ御書

松浦直房ノ御書 御書

中多御書及御書

大同

刑部ノ御書 御書 仙ノ御書

御書

寛延元戊辰年

延享五年七月

十月九日 大月ノ御書

御書 寺ノ御書

前正年中未言仰お後候と  
御未申法候し使に難く候と  
申す事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に

十月九日

大同年

十月七日拜年候事申候事  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に

辰十月十日堀田お後等及申候事大に

大同年

御免し寺社 申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に

申候事

申候事大に

御免し寺社 申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に  
申候事申候事大に

大徳山社 申候事申候事大に

申候事申候事大に

十月廿五日 杉平伊豆守領分 堀田右衛門守兵衛  
御寄書 杉平河守守兵衛領分 御寄書 御出書  
御事

杉平裏沖水痘 口傷 湯治

石州若尾 祝儀 明後十日 出仕 御事

但 沖城丸 御事 出仕

大所前作 杉平 御事 御出書

上事

一 杉平 御事 御出書 御出書 御出書 御出書  
御事 御出書 御出書 御出書 御出書

一 杉平 御事 御出書 御出書 御出書 御出書  
御事 御出書 御出書 御出書 御出書

石州 御事 御出書 御出書 御出書 御出書  
御事 御出書 御出書 御出書 御出書

三月九日

寛延元年

三月 御事 御出書 御出書 御出書 御出書  
御事 御出書 御出書 御出書 御出書

明二日

大細 御事 御出書 御出書 御出書 御出書  
御事 御出書 御出書 御出書 御出書

丁酉上巳日  
但病尔知少之旬一二月者之去年  
收事但馬守宅之使を以て候了  
上玉也邑之旬一二月中候候与候事  
此礼少候候了  
六月朔日

宝曆二丁申年

九月七日  
伊丹之屋及候の海小候也事候

来

西九洲修廣也事之有来也  
大綱之修也  
作也事候事候  
遷御可也事候

九月

十月朔日  
諸日之候大同年中候也  
事候事候事候

新

堀田相模守及山内守書付也



以法元

大目付

本月七日

大綱

西丸

還所... 作... 供...

但... 西丸...

事

十月

十月十三日... 酒井... 紙...

大目付

大綱...

西丸...

御切...

西丸...

二物... 志...

一 在小島邑之由之指方人心之使札  
一 御之申之由札之由之細事  
一 寺小島邑之屋居の由札之由之細事  
一 守中より沖酒湯之由 之由之細事  
之由之使札之由之細事  
石通之由之細事

六月十三日

青月六日 堀田の御事 御事之由之細事  
活り之由之河上之御事之由之細事

之由之御事之由之細事

之由之

酒井之御事之由之細事

大目付之由

大納言御事之由之細事  
之由之割

六月

十七日

月次御目出之由

十八日

月次五日出之由

十九日

月次十日出之由

石通

荒下之由

堀之御事之由

寛文  
石見守三郎殿  
新中丸に渡り了る候

六月廿日松本陣内御座候河那郡松本陣内  
松本陣内御座候上田松本陣内上井太助陣内  
御座候松本太右衛門松本陣内御座候  
左陣之御座候松本陣内御座候御座候  
只此御座候

大酒之御座候御座候御座候御座候  
御座候

公方御座候  
大酒之御座候

二種一荷  
御座候

一荷一荷  
御座候

一荷一荷  
御座候

石見通了左御座候御座候御座候御座候  
大酒之御座候御座候御座候御座候  
御座候御座候御座候御座候御座候  
御座候御座候御座候御座候御座候

六月

去月廿三日升大徳院御成務  
皇太后御成務御成務  
御成務

大同廿日

去月廿三日

大徳院御成務御成務

一 西尾 歷年同書行

一 所部丸 壽向後抄小神麻下

但所部丸 御成務 歷年同書行

石 御成務 御成務

去月廿三日升大徳院御成務  
御成務 御成務 御成務  
御成務 御成務 御成務  
御成務 御成務 御成務

大徳院御成務御成務

大徳院御成務御成務

大徳院御成務御成務

大徳院御成務御成務

但所部丸 御成務 御成務  
御成務 御成務 御成務

大徳院御成務御成務

三月廿三日

大納言御沖御湯為所祝儀

公方御 大納言御 百石位之御款之所

持者御 後大納言御 六中侍御 御傳之御款之所  
と御式之御式御

十月九日

宝曆二年酉年

二月廿日 去屋後 全御 堀田御 御式御 御款御 御日

御 堀田御 御式御 御款御 御日 御 堀田御 御式御 御款御 御日  
御 堀田御 御式御 御款御 御日 御 堀田御 御式御 御款御 御日

未

御

大月御

御

雁之川法御

御

菊之川法御

同編子

御札  
西元

有衣坐之四人

大納言御所御座之極

所仕極之為臣後

唯昔後能之

御所之何者之極見也

仕言也

御出之度斗月長行是月用之御座

御所之御座也

三月其日別部之使御所御座也御  
四語見之度御多御座御所御座也  
不之御座御所御座也御座御座御座

御所

御之上

西元本月御座御座御座御座御座

御座御座

大納言

御所

大納言御所御座御座

西元本月御座御座

御所御座御座御座御座

御座御座

御所御座

御所御座御座御座御座

御所御座御座御座御座御座御座

御所御座御座御座御座御座御座

湯居之氣... 元年... 定... 以後...  
...  
...  
...

一... 元... 治... 元... 伊丹... 氏... 氏... 氏...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
二月...  
...

...  
...  
...  
...  
...

高家

雁... 氏... 氏... 氏...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

徳石 作有石掛 河内山内何處法也見也  
下仕方分 任方方磨斗月半修志用奉  
賢也 城方所下事也

二月廿四日

二月廿四日之世初書多仰の石河立佐多依方  
の書少書方定字旦物作来

以度日見

河内所修後出来去月廿七日 正遷宮お  
佛の身方少経縁以一日修

御中

西丸の懸出仕事

- 一 御氣切少及右の由二月廿七日迄中修り
- 一 室一使方少及右の事
- 一 其由立色之由一接方右以之使方之印の札  
二と云ふ紙半

但立色立色之場子及右と一為札の  
石之紙と云ふ紙也

六月朔日

九月廿四日少及右石川宮修り承永迄修  
修路園修り修り修り四と云ふ紙也



秋分の旦物

角一河猪

同 鳩子

同 養有子

同 鳩子

菊之角好形猪

同 鳩子

今度日光

御官所候後由末

向建之太在師の居所候候以今日御能也

作月かゝる名に御見分方也

長袴忌用お侍了也

御新々分お侍候お及お道礼に候も御座亦

御知也 西九月也

三宮宅へお参りて及也

九月

十月十日御種御申候板倉五郎御座候

板倉御座候御申候也

以上御座候御申候也。御志度力治日御出候也

度明去。法名名族。和。爲。也。 城。後。少。  
小。社。才。務。是。用。之。名。及。何。去。列。年。年。以。後。  
力。之。經。由。之。也。非。自。死。不。早。出。以。飛。送。等。之。以。方。  
の。紙。中。と。又。の。也。年。下。と。り。の。也。

二月十日板倉義康が新撰山對馬吉原

より四早松来

以早松江船を今より於 叙中

大細之舟所海續名 経出は結網末六

月を至 所入樂末十一月、早松より大船相慶

之。任。後。の。也。所。の。也。任。の。也。之。也。以。也。死。不。也。出。任。  
明。也。之。等。り。之。也。方。が。對。馬。吉。原。の。也。也。年。下。と。り。の。也。  
也。

同日右原より所へ右近所管領の海へ方々

石の上傍より所へ書きたる書行て也也

快活来

おれ

大目付

今日此より 任知り有る所は任候也 城

向へ 西丸へ出仕茶書年但馬吉

所中凡 免九了為年分中ハのり日  
存了飯了也也

二月

折一

大月

一 廿二所方 唯高徳を中流の事

一 以度為所後候立上色く如く指石山を  
使礼す候心立礼は後候下上事

他後指知少、物亦く如くは月分事

但し高徳人の使ふは後候下上立色  
之後指下上高徳人

右之知下上高徳人

二月

寶曆己甲戌年

二月廿日石川令殿及板倉内信四次は信

一、信四次は信四次は信四次は信四次  
信四次は信四次は信四次は信四次

折一

成三月甲申多仙考多夜四歳在少書有  
空

四後元

大同有

在馬蕃及河内及湖山通壽元及法鏡子以  
作出山以版元

六月之口檢表丹傳多似古版法中多似法  
田く版法塔同傳多似四呈て此少書有定一正  
傳中多似少口呈物法未

おしと

傳田在傳書及少版の少書有定

少法元

大同有

河法元之書

少書有在少外所用之少在少年一死也多法  
少法元之少法元之少法元之少法元之

少法元之少法元之少法元之少法元之

少法元

少法元之少法元之少法元之少法元之

六月十八日打平能之方候之南之斗乃候  
少儀中知伊丹之度所候少進口書付  
之斗乃候方之直物係来  
打之

六月廿六日堀田打候方及四河の口方等  
少儀元

大同元年

未正二日

大納言御評結納之少儀候之湯法少儀  
代大名一房之方法少儀者由第之方物形法何  
前人多有布衣之少役人少儀傳中修之方用

金 城 御中元在御 西卷了之卷

城

一 石居少儀候因方介 御中元

西卷上巻出仕了之

但老年但之者之若年方中一之と有也

一 土色土色之由之方名少儀候之御少儀候  
以候候了之御

但候指知少儀候之由之月分由之若年  
且候之書定口以候少儀候了之上土色  
土色之候指之指方名少儀候之御  
御

石見縣之石見郡

六月

六月廿日 杉本陣中より伏見之浦に斗り候儀  
ありしに、物申藏形左の儀に、由書付て、  
候に、物申藏形左の儀に、由書付て、

河内國守屋陣より、石見縣へ、  
御切立 西丸へ、御出は、是より、  
為丸より、石見縣へ、御出は、  
相国倉庫の右に、石見縣へ、御出は、

其旨、由書付て、石見縣へ、御出は、  
斗り候儀に、物申藏形左の儀に、  
候に、物申藏形左の儀に、由書付て、  
序に、物申藏形左の儀に、由書付て、

六月廿日

物申藏形左  
杉本陣中

六月廿七日 石見縣守屋陣より、石見縣へ、  
御出は、石見縣へ、御出は、石見縣へ、  
御出は、石見縣へ、御出は、石見縣へ、  
御出は、石見縣へ、御出は、石見縣へ、

心後名  
以是は略記に於て、  
任事は、  
出立は、  
里名は、

六月

後生力部  
物部

六月九日、  
伊豆守、  
四段、

石目、

河内守、

公方

大納言

二種千疋元

二種五疋元

二種三疋元

二種一疋元

推方石部

九万石

三万石

徳元、侍従

唯宮御

二種大是

一様大是

一様之是

一様大是

振力之沙上

五万石より  
九万石まで

三万石より  
五万石まで

近江侍従上

右通可名御  
三万石より一萬石まで  
六万石より一萬石まで  
唯五万石より一萬石まで

御中丸の言葉御より  
西丸の言葉御より  
坂下丸の言葉御

未月二日朝二時より六時迄  
扇下丸三回之使了了之執之御上

十月

十月廿日杉平伊豆守御之御上并八夜  
石川若狭守御之御上  
御上後一也之若狭守御之御上  
堀田若狭守及豊海守御之御上

大同御

一 未月朔日所塔終十月月迄迄礼及也



概

一 因日海法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
常之乃海法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
用之乃海法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
用之乃海法廷漢代大石居之乃法廷漢代

一 右方以法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代

西元一千九百零九年

一 西元一千九百零九年  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代  
乃法廷漢代大石居之乃法廷漢代

石通

十月

三月二十日

三月廿一日  
昨宮内省御事今日  
河原中橋より御方へ

三月

三月廿一日  
石川美穂より御事  
日下御事  
御事  
御事

お

四月

大目付

中目付

三月廿一日

御中有人公より御事  
御事  
御事

一

四月

大目付

百石以上より御事  
御事  
御事  
御事  
御事

三月二日

おとこ

山田元

大目付

國持大名因幡子

溜法

山田元

印太大名因幡子

今度

大綱

御帳終相済の者所祝儀味音

御能

作付の者了御見物多

作付

曆年月長行足用共時了全

決也

故言の多し之由書不及

奉向分出候

東郷

奉言

石田の言見物

登 御帳終相済の者所祝儀味音

決也

城

尾名法因端子  
中妻名因端子  
戸田大助氏  
弟名因端子  
因端子

石田氏より来六日七日御座り  
下記名相多  
石田氏より来六日七日御座り  
下記名相多

但六日七日候人合事は  
但六日七日候人合事は

石田氏より来六日七日御座り  
下記名相多

一 御座り名相多候  
城下老年は  
石田氏より来六日七日御座り  
下記名相多

二月二日

二月六日  
二月六日  
二月六日  
二月六日

石田氏より来六日七日御座り  
下記名相多



陳其厚

三月四日

Faint, illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.





